

区 分	専門科目－フィールド系科目	担当教員	谷口 重徳			
授業科目	社会調査のデータ処理 A					
英 訳	Introducing Data Analysis for Social Science A					
配当年次	2年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位	
<b>【授業の概要】</b> 社会調査実習や卒業研究に際して行われる社会調査に必要なデータ処理の基本的手順について学ぶ。授業は実習形式で行う。なお、本科目は社会調査士資格の関連科目の一つである。						
<b>【授業の目的】</b> 社会調査に必要なデータ入力、集計、分析方法の基礎を学ぶことを目的としている。						
<b>【到達目標】</b> 統計ソフトを用いながら、単純集計、平均、標準偏差、クロス集計、相関係数、単回帰分析、カイ2乗検定などの基本的な処理方法を習得する。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 前回の授業内容をよく理解しておくこと。次回の項を読み、不明点をチェックしておくこと。						
<b>【授業計画】</b> 第 1 回 ガイダンス～社会調査のデータ処理とは？ 第 2 回 調査テーマの設定方法 第 3 回 調査票の作成方法の留意点 第 4 回 調査票の配布と回収の留意点 第 5 回 データ入力とコード化、データクリーニング 第 6 回 様々なグラフの作成方法と使い方について 第 7 回 基本統計量 第 8 回 平均、標準偏差 第 9 回 単回帰分析 第10回 区間推定 第11回 分散分析 第12回 クロス集計、相関係数、検定(1) 第13回 クロス集計、相関係数、検定(2) 第14回 仮説検定 第15回 基本的な調査レポートの書き方とプレゼンテーションの方法						
<b>【教科書】</b> 石村貞夫、石村友二郎『SPSSでやさしく学ぶ統計解析』（東京図書）						
<b>【参考書】</b> 適宜、プリントを配布する。						
<b>【成績評価基準】</b> 毎回の授業中に提出する課題（100％）から判断する。						
<b>【メッセージ】</b> 必ず、毎回の課題を提出すること。						

区 分	専門科目－フィールド系科目	担当教員	谷口 重徳			
授業科目	社会調査のデータ処理 B					
英 訳	Introducing Data Analysis for Social Science B					
配当年次	2年次 後期	必選別	選択	単位数	2 単位	
<b>【授業の概要】</b> 社会調査実習や卒業研究に際して行われる社会調査に必要なデータ処理の基本的手順について学ぶ。授業は実習形式で行う。なお、本科目は社会調査士資格の関連科目の一つである。						
<b>【授業の目的】</b> 社会調査に必要なデータ入力、集計、分析方法の基礎を学ぶことを目的としている。						
<b>【到達目標】</b> 統計ソフトを用いながら、回帰分析、重回帰分析、因果関係の分析、主成分分析、因子分析、判別分析、クラスター分析、数量化理論などの基本的分析方法を習得する。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 前回の授業内容をよく理解しておくこと。次回の項を読み、不明点をチェックしておくこと。						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 ガイダンス 第 2回 平均・分散・標準偏差、共分散、データの標準化 第 3回 重回帰分析 (1) 第 4回 重回帰分析 (2) 第 5回 重回帰分析 (3) 第 6回 因果関係の分析 第 7回 主成分分析 (1) 第 8回 主成分分析 (2) 第 9回 主成分分析 (3) 第10回 因子分析 (1) 第11回 因子分析 (2) 第12回 判別分析 第13回 クラスター分析 第14回 数量化理論 (1) 第15回 数量化理論 (2)						
<b>【教科書】</b> 石村貞夫、石村友二郎『SPSSでやさしく学ぶ多変量解析』（東京図書）						
<b>【参考書】</b> 適宜、プリントを配布する。						
<b>【成績評価基準】</b> 毎回の授業中に提出する課題（100％）から判断する。						
<b>【メッセージ】</b> 必ず、毎回の課題を提出すること。						

区分	専門科目－フィールド系科目	担当教員	澤田善太郎			
授業科目	社会統計学 I					
英 訳	Social Statistics I					
配当年次	2年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位	
<b>【授業の概要】</b> 社会統計学 I・II を通じて、確率論を基礎に統計的推論の基本を説明する。						
<b>【授業の目的】</b> 社会統計学 I では、記述統計と確率分布（二項分布，正規分布）を用いた推論を学ぶ，						
<b>【到達目標】</b> 社会統計学 I・II を通じて，社会調査士資格取得に必要とされる範囲の統計学の知識を身につける。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 復習を重視。毎回の授業での「まとめ」を理解し，自分で計算できるようになってください。						
<b>【授業計画】</b> 第 1 回 代表値 第 2 回 度数分布 第 3 回 分散と標準偏差 1 第 4 回 分散と標準偏差 2 第 5 回 2変数の独立と相関 第 6 回 順列，組合せ，確率 第 7 回 確率分布 第 8 回 2項検定 第 9 回 統計的検定の論理 第 10 回 正規分布の性質 第 11 回 2項分布の正規近似 第 12 回 不偏推定値 第 13 回 標本平均の分布 1 第 14 回 標本平均の分布 2 第 15 回 前期のまとめ						
<b>【教科書】</b> 冊子を配布する。						
<b>【参考書】</b> とくに指定しない。						
<b>【成績評価基準】</b> 定期試験 (75%) ，毎回の授業でおこなう小テスト (25%)						
<b>【メッセージ】</b> 知識を積みかさねていく授業です。しかも，多くの人が苦手な数式の出てくる授業です。途中で授業を休んだり，授業中に他のことに気を取られていると，何の話かさっぱり分からなくなります。毎回，私が講義するより練習問題を解く時間のほうが多くなるでしょうが，頑張ってください。						

区 分	専門科目－フィールド系科目	担当教員	澤田善太郎			
授業科目	社会統計学Ⅱ					
英 訳	Social Statistics Ⅱ					
配当年次	2年次 後期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】 推測統計の基礎を学ぶ。また、クロス表分析から回帰分析までのデータ分析の方法を学ぶ。						
【授業の目的】 社会統計学Ⅰを受け、母集団と標本集団との関係について理解し、データ分析の実際を学ぶ。						
【到達目標】 クロス表分析まで自力で計算できるようになる、分散分析以下も統計ソフトを使えるようになる。						
【準備学習(予習・復習)】 社会統計学Ⅰに同じ。毎回の授業のまとめを確実に身につけてください。						
【授業計画】 第 1 回 母平均の区間推定 1 第 2 回 母平均の区間推定 2 第 3 回 母数の検定 1 第 4 回 母数の検定 2 第 5 回 $t$ 分布と小標本法 1 第 6 回 $t$ 分布と小標本法 2 第 7 回 離散型 $\chi^2$ 分布 第 8 回 $\chi^2$ による独立性の検定 1 第 9 回 $\chi^2$ による独立性の検定 2 第10 回 クロス表分析のその他の方法 第11 回 因果推論 第12 回 分散分析 第13 回 回帰分析 第14 回 後期のまとめ 第15 回 全体のまとめ						
【教科書】 社会統計学Ⅰで配布した冊子をひきつづき使用する。						
【参考書】 とくに指定しない。						
【成績評価基準】 定期試験 (75%) , 毎回の授業でおこなう小テスト (25%)						
【メッセージ】 授業はだんだん難しくなってきますが、頑張ってください。実際の調査データを分析するときに使える方法もほかに増えていきます。						

区 分	専門科目－フィールド系科目	担当教員	山本昌弘・池本良教			
授業科目	社会調査実習					
英 訳	Social Research Practice					
配当年次	3年次	通年	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の概要】</b>						
フィールドワークや観察・面接・聞き取り調査、資料収集などによる質的データの収集と、質問票によるアンケート調査、会話分析やドキュメント分析などを通して、問題・課題発見、調査の企画・設計、調査票の作成、調査の実施、調査結果の集計・分析、報告書の作成までの一連の社会調査の方法と作業を習得する。						
<b>【授業の目的】</b>						
社会観察やインタビューなどの質的・定性的調査とアンケートなどの量的・定量的調査の手法を通して、一連の社会調査の方法と作業を習得する。						
<b>【到達目標】</b>						
社会調査の基本的な考え方や技術について理解することを目標とする。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b>						
調査票の作成や調査データの集計・分析、報告書の作成等については、授業外の予習・復習が必須である。						
前期：質的調査						
I.問題・課題発見						
①質的調査の概説						
②フィールドワークと報告書・文献、新聞などのテキストデータの収集						
③BS法やKJ法による現状把握や情報共有による問題意識の課題化						
④フィールドワークのまとめとテキストデータの内容分析						
⑤プレゼンテーション・ファイルなど仮説立論のため資料作成						
II.調査設計						
⑥フィールドワークと質的データ分析の結果報告・⑦問題・課題の明確化による仮説の立論						
⑧聞き取り調査の対象・方法、関係機関への協力依頼などの計画策定、⑨聞き取り調査のための調査票作成						
III.インタビュー						
⑩関係者・関係機関への聞き取り調査と調査票修正・⑪面接・聞き取り調査による聞き取り調査の実施						
IV.まとめと報告						
⑫聞き取り内容のデータ化と会話分析・⑬質的調査の報告書・報告資料の作成・⑭プレゼンテーション・ソフトによる報告						
⑮報告結果の修正と報告書の提出						
後期：量的調査						
I.量的調査の企画						
①量的調査(アンケート調査)の計画・②仮説再構成・アンケート調査設計・対象と地域の選定・③調査票の作成						
④プレテストと調査票の修正・⑤調査票の完成						
II.量的調査の実施						
⑥調査の実施・⑦調査票回収・⑧回収票チェック						
III.質的データの集計・分析・報告						
⑨集計表の作成・⑩回収データの入力 ⑪入力データのチェック⑫アンケートの単純集計・⑬アンケートのクロス集計						
⑭アンケートの分析⑮報告書作成						
<b>【教科書】</b> 使用しないが、実習中に資料を適宜提供する。						
<b>【参考書】</b> 実習中に適宜紹介する						
<b>【成績評価基準】</b>						
調査報告書の内容(60%)、調査・受講態度(40%)で評価する。						
<b>【メッセージ】</b>						
リサーチマインドを磨く代表的な科目なので、奮って受講されたい。社会調査士の認定科目の1つでもある。						

区 分	専門科目ーフィールド系科目	担当教員	池本 良教			
授業科目	質的調査法					
英 訳	Qualitative Research Method					
配当年次	3年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の概要】</b> インタビュー、取材、観察などの質的・定性的調査について、企画・設計・計画から調査票の作成、調査の実施、報告までの一連の方法を、講義と演習・作業をとおして解説する。						
<b>【授業の目的】</b> 問題・課題発見から課題設定・仮説立論、仮説検証までの一連の社会調査の定性的・質的手法を習得する。						
<b>【到達目標】</b> 定性的・質的調査の概要を理解し、フィールドワークによる観察・面接・聞き取り調査、資料収集などによる質的データの収集と、会話分析やドキュメント分析などによる分析方法を習得する。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> テレビのドキュメンタリーやニュースなどの報道番組の取材やレポートの様子、新聞の記事の書き方などを注視し、授業を経て学修内容をまとめる。						
<b>【授業計画】</b> 第 1回：質的調査の概説：質的データの収集・分析方法など 第 2回：フィールドワークと質的データの収集：現地視察と、既存の報告書や文献、新聞記事などのテキストデータなどの収集 第 3回：現状把握と情報共有：B S法やK J法などによる問題意識の課題化 第 4回：問題発見と課題設定：フィールドワーク結果のまとめとテキストデータの内容分析 第 5回：資料作成：プレゼンテーション・ファイルなど仮説立論 第 6回：質的データ分析：プレゼンテーション・ソフトによる結果説明と問題・課題の討議 第 7回：仮説立論：問題・課題の明確化 第 8回：聞き取り調査計画の策定：対象・方法の明確化と関係者・関係機関への協力依頼など 第 9回：調査票作成：聞き取り調査のための調査票作成 第10回：予備的調査の実施：関係者・関係機関に対する聞き取り調査 第11回：聞き取り調査の実施：面接・聞き取り調査の実施 第12回：調査結果のとりまとめ：聞き取り内容のデータ化と会話分析 第13回：報告書・報告資料の作成：質的調査の報告書・資料の作成 第14回：報告：プレゼンテーション・ソフトによる報告 第15回：報告結果の修正：報告結果の修正と報告書の提出						
<b>【教科書】</b> 使用しないが、適宜資料を配布する。						
<b>【参考書】</b> 適宜紹介する。						
<b>【成績評価基準】</b> レポート(40%)、調査票・報告書の内容(40%)、課題の遂行状況(20%)で評価する。						
<b>【メッセージ】</b> 社会調査士資格取得のための標準カリキュラム「【 F 】 質的な分析の方法に関する科目」の認定科目(選択)である。						